

つながる医療



神経内科 診療部長

せん だ まゆ み
千田 麻友美 医師

2000年 藤田保健衛生大学卒業

●資格/日本神経学会神経内科専門医、日本内科学会内科専門医、医学博士

●所属学会/日本神経学会、日本内科学会、日本神経治療学会、日本人類遺伝学会

●専門領域/神経内科一般

神経内科

常勤医師が着任。

パーキンソン病などの神経変性疾患をはじめ、
新しい検査・治療の選択肢が広がっています。

大雄会では、2014年1月より神経内科に常勤医師が着任いたしました。

頭痛、しびれ、めまい、運動障害、意識障害、感覚障害などの

症状を幅広く診て、脳、脊髄、末梢神経、筋肉の

多岐にわたる神経疾患の診断、治療を行います。

新しい検査・治療の選択肢が広がりつつあるパーキンソン病などにおける

最新治療の特徴を中心に、神経内科の診療内容について、

診療部長の千田麻友美医師にお話を伺いました。

神経内科対象疾患

- 神経変性疾患：
パーキンソン病およびその関連疾患、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症など
- 神経免疫疾患：
ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎など
- 神経感染症：脳炎、脊髄炎など
- 脱髄疾患：多発性硬化症など
- 筋疾患：
重症筋無力症、強直性筋ジストロフィーなど
- 運動ニューロン疾患：
筋萎縮性側索硬化症など
- 機能的疾患：てんかん、片頭痛など

治らないイメージの神経変性疾患 新しい検査・治療薬の選択が広がる

大雄会の神経内科では、これまで非常勤医師による診察を行ってきましたが、1月より常勤医師が着任し、今後診療を拡充していく予定です。神経内科で診る疾患は、脳、脊髄、末梢神経、筋疾患と範囲が広いのが特徴で、パーキンソン病、アルツハイマー型認知症などの神経変性疾患のほか、免疫性神経疾患（ギランバレー症候群など）、神経感染症（髄膜炎・脳炎など）、代謝性神経疾患、末梢神経疾患など、多岐にわたる疾患を扱います。このうち特にパーキンソン病が代表する神経変性疾患は治らないというマイナスなイメージを持っておられる方も多いかもしれません。しかし、神経内科領域でも日常臨床において新しい様々な検査法や治療薬の選択肢が広がってきています。

診断においては、SPECTによって脳の黒質線条体におけるドパミン神経細胞の神経終末に存在するドパミントランスポーターを画像化する事ができるようになりました(図1、2)。パーキンソン病やレビー小体型認知症では病初期から黒質線条体神経の変性が進むため、線条体において123I-FP-CIT (DatSCAN)の集積が低下するといわれています。発症早期の診断やパーキンソン病以外の不随意運動症との鑑別にも有用であると考えられており、大雄会でも3月より検査が可能となりました。

パーキンソン病 ドパミンアゴニストの徐放製剤が主流に 服用回数の減少で患者さまに好評

パーキンソン病の治療に関しては、代表的な治療薬であるドパミンアゴニスト(ロピニロール・プラミベキソール)において徐放製剤が主流になって

きています。1日1回の服用で安定した血中濃度推移を示すことが確認されており、患者さまから「服用回数が減ったので内服忘れを防ぐことができる」と好評いただいています。また投与経路として経口投与以外に貼付剤(ロチゴチン)、皮下注射(アポモルヒネ)といった製剤も出てきており嚥下障害や消化器症状のある患者さまにも使用できるようになりました。

そのほかにも作用機序の異なるアデノシンA2受容体拮抗薬のイストラデフィリンでは基底核神経ループの異常を制御してパーキンソン病の運動症状改善をもたらすといわれています。L-DOPAの徐放剤や抗ジスキネジア薬等の開発も進んでいますので、今後もますます治療の幅が広がってくると思われます。

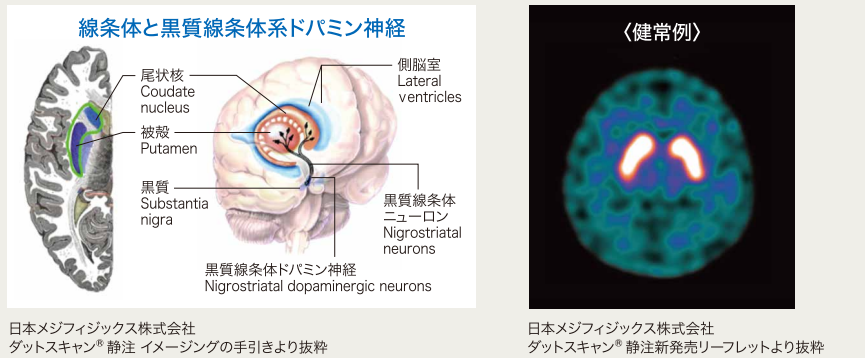
このように多様な治療薬が登場したことで、**選択肢の中から患者さまと向き合って最適な治療薬を選び発症後も社会参加をしながら元気に過ごしていただけるような治療を目指しています。**パーキンソン病の患者さまの症状は千差万別で薬の効き方や副作用の出方も個人差が大きいので治療や診断にお困りのケースは早期にご相談いただければ幸いです。

神経内科疾患の増加が予想 地域の専門医として、 他科との連携で多岐にわたる疾患に対応

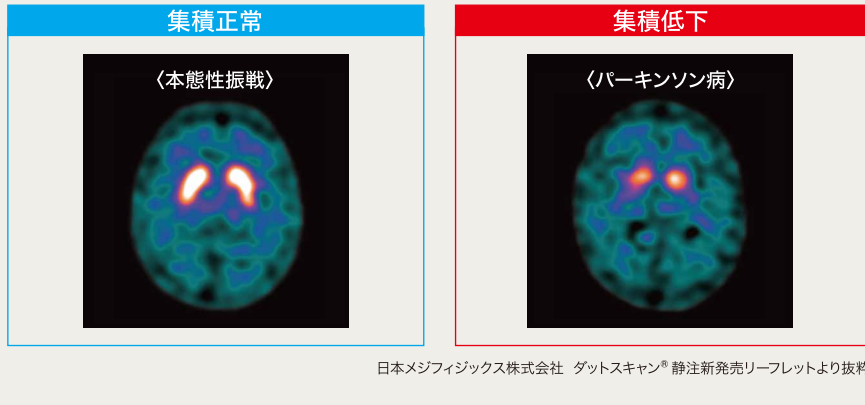
高齢化する社会の中で神経内科で扱う疾患の割合は今後さらに増加していくと予想されます。神経疾患による症状は、患者さまの日常生活動作・能力に直接大きく影響することから、ご本人だけでなくご家族からお話を伺い、病期に対応した日常生活指導、精神的サポートを心がけていきたいと考えています。この地域ではまだまだ神経内科の専門医が少ないため、地域の専門医としての役割を果たせるよう、当院の医療ケースワーカーおよび地域医療連携室を通じて地域の先生方との連携を密にし、患者さまとご家族の社会的サポートができるよう取り組んでいきます。神経疾患でお困りの方がいらっしゃればご紹介いただければ幸いです。

ドパミントランスポーターイメージング

【図1】



【図2】



詳しくは、地域医療連携室までお電話ください。

tel.0586-26-2366 (直通) fax.0586-24-9999

tel.0586-72-1211(代表) ●受付時間:月～金8:30～19:00 土8:30～12:30 ※祝日、年末年始、4月3日除く